

28遠漁発第30号  
平成28年7月1日

長野県知事

阿部守一様

住所 飯田市南信濃和田1257番地  
名称 遠山漁業協同組合  
代表者 代表理事組合長 佐藤 光弘



遊漁規則変更認可申請書

平成25年12月6日付長野県指令25園畜第897号の19で認可のあった、内共第6号第5種共同漁業権に係る遊漁規則を変更したいので認可して下さい。

記

添付書類

- 1、遊漁規則変更の変更部分新旧比較対照表
- 2、遊漁規則変更の理由を記載した書面
- 3、通常総代会議事録 (写)

遠山漁業協同組合内共第6号第5種共同漁業権遊漁規則変更(案) 新旧対照表

変 更 案	現 行																
<p>(遊漁料の額及び納付方法)</p> <p>第 7 条 第2条第4項の規定により納付する遊漁料の額は、次のとおりとする。 ただし第3項ただし書きに規定する方法により納付するときは、700円を加算した額とする。</p> <table border="1" data-bbox="518 1265 694 1982"> <thead> <tr> <th>魚 種</th> <th>承認期間</th> <th>遊漁料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">全 魚 種</td> <td>1 日</td> <td>2,000円</td> </tr> <tr> <td>1 年</td> <td>8,000円</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 以下 省 略</p> <p>付 則 (実施の時期)</p> <p>1 この規則は、行政庁の認可の日(平成28年 月 日)を経てより後、平成29年4月1日から施行する。</p>	魚 種	承認期間	遊漁料	全 魚 種	1 日	2,000円	1 年	8,000円	<p>(遊漁料の額及び納付方法)</p> <p>第 7 条 第2条第4項の規定により納付する遊漁料の額は、次のとおりとする。 ただし第3項ただし書きに規定する方法により納付するときは、700円を加算した額とする。</p> <table border="1" data-bbox="518 324 694 1041"> <thead> <tr> <th>魚 種</th> <th>承認期間</th> <th>遊漁料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">全 魚 種</td> <td>1 日</td> <td>2,000円</td> </tr> <tr> <td>1 年</td> <td>7,000円</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 以下 省 略</p>	魚 種	承認期間	遊漁料	全 魚 種	1 日	2,000円	1 年	7,000円
魚 種	承認期間	遊漁料															
全 魚 種	1 日	2,000円															
	1 年	8,000円															
魚 種	承認期間	遊漁料															
全 魚 種	1 日	2,000円															
	1 年	7,000円															

## 遠山漁業協同組合

### 1年の遊漁料 7,000 円から 8,000 円への変更申請理由書

当組合は、過去の消費税制定及び引上げ（3%→5%→8%）の折にも、売上の減少を抑え、むしろ売上増を図るために、現行の遊漁料を据え置いてきました。しかし、ここ数年来赤字体質が恒常化し、このままでは組合の維持運営にも支障をきたす状況になってきました。

そこで、政府が当初平成29年4月1日からに予定していた消費税率10%への引上げに関係なく、当組合は、平成29年4月1日より、年釣り券を現行の7,000円から8,000円へ変更いたしたく、平成28年度当組合通常総代会に議案提出し、可決承認をいただいたものであります。

組合員への賦課金も既に2年前に、2,000円から3,000円に値上げしており、そうでなくても人口減少と高齢化により、組合脱退希望者が後を絶たないのが現状で、これ以上の賦課金値上げは困難と考えますので、ここは1年の遊漁料を値上げすることにより、収支バランス改善の一助にしたいという考え方であります。

例えば、現行の賦課金3,000円を4,000円に値上げするという案は、組合員数が平成26年度末の678名から平成28年度末の589名で、この2年間に89名も減っていることを考えるとき、机上の計算ではともかく、現状では当組合においては不可能と判断せざるを得ません。

実際、遊漁料の値上げだけで、収支バランスの均衡が図れるものでもありませんので、これを基本に、他の改善策も取り入れることにより、引き続き改善を図ってまいる所存であります。